

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2571800024		
法人名	社会福祉法人 湖東会		
事業所名	グループホームハートフル		
所在地	滋賀県犬上郡多賀町中川原+605番地の2		
自己評価作成日	平成28年12月30日	評価結果市町村受理日	平成29年2月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン アクティブ・ライフクラブ ナルク滋賀福祉センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432平和堂 2階		
訪問調査日	平成29年2月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケアワーカー会議で認知症ワンポイントとして毎月取り入れ、共に学ぶ時間を設けている。認知症ケアを基本に、利用者一人ひとりの想いに寄り添った対応を考えている。今年度は家族との繋がりを密にと考え、家族全員参加で日帰り旅行も行えた。地域との関わりを大切に、地元の祭りには積極的に参加し、施設内の他事業と合流して行事に参加する等、交流する機会を設けている。各利用者の誕生日にはご家族様も招待し、一緒に食事や外食をし、年末の家族会では、家族・利用者・職員で忘年会として食事会も開催、家族と良好な関係を保てるように工夫もしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

彦根市と多賀町の境、芹川沿いの住宅街から離れた田園地帯に犬上郡老人福祉計画により開設した広域福祉施設の一角に当事業所がある。17,000㎡弱の広大な敷地には当事業所を含み特養等、9事業所が併設され職員の住宅も備えている。法人挙げて“利用者に「手のぬくもりを伝えたい」と笑顔と細やかなコミュニケーションが介護の基本と考え、利用者から此処が楽しく一番着くと言って貰える応援をします”の運営方針を「その人らしく生きる力を尊重し思いの背景を汲み暖かな心と専門性をもって支えます」と、事業所理念に展開し職員の豊かな経験を基に利用者に笑顔で穏やかに接している。平均介護度合3.1の元気老女達は経験豊かな職員達に見守られ屈託なく笑い、時に口喧嘩等、賑やかに毎日を過ごし、介護度が低くなったり、終末期対応から回復した利用者もいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の理念をケアワーカー室に掲示し、日々のケア向上の為、意識付けを行なっている。またホームページにも掲載している。	理念を事務所に掲げ、ワーカー会議やヒヤリハット会議等で理念の沿ったケアが実践されているか確認し合っている。職員は利用者に「手の温もりを伝えたい」と笑顔と細やかなコミュニケーションで利用者に接している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域で行われる祭事や行事には出来る限り参加し、顔見知りの地域住民に声を掛けて頂く事が出来ている。	広報誌を町内、3区長に全戸配布して貰っている。地元ボランティアを大勢受け入れ繋がりを深めている。近隣に民家はないが、隣接のモーター店とは非常時の連携体制は敷いている。認知症キャラバンメイトとして地域貢献に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	4か月に1回広報を作成し、利用者と共に地域へ出向き、地域住民へ配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回奇数月に開催しサービス内容や人員配置に関する報告、苑内での事故・ヒヤリハットを報告し、意見を参考にさせて頂いている。普段の悩みや現状も話し、色々な意見も頂いている。	地域代表の民生委員、3地区の区長、行政、家族会代表が出席し、行事や生活の様子、課題等の報告や行政からの地域情報も協議している。職員は内容を詳細な議事録で共有している。構成員の立場の紹介がない。	議事内容をより理解して貰う為にも、会議の構成員の氏名、立場、身分の紹介を望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の入退所やサービス内容に関し、市町村担当者と連携・報告・相談を行なっている。待機者の現状や状況も相談・報告している。	行政とは運営推進会議の他、頻繁に面会し広報誌を届けたり、行政からの入居相談に応じている。介護困難利用者の状況、実情を報告、相談すると共に来訪を要請し、情報や助言を得たり、密に連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体の身体拘束廃止委員会からのポスターを目に付くところに貼り出し、常に意識を高めている。また、身体拘束ゼロチェックリストの確認・言葉の虐待チェックシートを記入し、自己確認も行なっている。	日中玄関は施錠せず、職員は利用者の見守りに徹している。スピーチロックも留意し、穏やかな言葉掛けをしている。職員全員が毎年、身体拘束に関する内外の研修を受講し理解に努めている。3か月毎に法人内委員会が拘束禁止のポスターを作成し、居間に掲示し意識付けしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは、直接の暴力による虐待だけでなく、言葉や介護放棄等も虐待にあたる事を苑内の研修で学ぶことが出来ている。また、パンフレットや会議等で折に触れ話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去からの外部研修にて制度に関する知識を習得している。また部署内でも知識を共有し、習得している。制度が必要な時には、制度を使って活用出来るように、指導している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族に来て頂き、見学等を含めて時間をかけながら納得されるまで説明を行なっている。料金改定等の場合には家族会にて説明する機会を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会に参加して頂く際や、運営推進会議にて家族会の意見等を報告・反映している。	家族が面会、衣更え、一斉床ワックス掛け等で来訪時、イベント開催時、年数回開催の家族会を通して家族同士の親睦を図りながら、意見を聴き運営に活かしている。提案を受けて家族と一緒に日帰り蟹食旅行が実現した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ケアワーカー会議を開催し、一人ひとりが意見を言える状況を作っている。ちょっとした提案でも皆が共有できるように伝達ノートを設け、職員全体で共有している。	管理者は職員との連携を密にする一方、ワーカー会議で「認知症ケアワンポイント」を提起し自由な協議で実践に向け取り組んでいる。管理者、主任が主になって必要に応じ個別面談し風通しの良い環境に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職能制度を設け、定期的にスーパービジョンを行なっている。意見や現在の職場への思いを記入してもらい、どのような状況にいるのかを把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修には出来る限り参加してもらい、法人外は研修内容や希望により受けてもらっている。研究会や勉強会を随時開催し、出来る限り参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	彦愛犬グループホーム部会に参加し、意見交換を行なっている。研修で得てきた情報を会議等で共有し、質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所さえる前には、事前に情報を収集している。希望時には入所前にお試しショートステイを利用してもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から困りごと等の聞き取りを行っており、必要時には時間を十分に取れるよう配慮した上で、訪問や面会を行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の実情や要望を聞き、出来る限りの対応をしている。希望時には近隣施設等の情報も提供し支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ややもすると甘えた関係になりがちになり、言葉のやり取りが雑に聞こえる場合がある。役割を決め、お互いに助け合えるような言葉かけを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日月には家族への出席を依頼したり、家族会を通じて大掃除や食事会を開催しながら、共に支え合える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	実りの秋には自宅へ一時帰宅し実った果物を収穫する。その際、近所の方と交流し、また地域住民に面会へ来て頂けるように、顔の見える関係作りを行ないながら、働きかけている。	職員は家族の来訪時、近況報告を必ず行い、心から歓迎し、寛いで話が弾むコーナーも設け飲み物を提供し、時に話の輪に入る支援をしている。馴染みの人や場、しきたり等を話題にし関係が途切れない様努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新しく入所された際には、歓迎会を開催し紹介する場面を作っている。職員が間に入り、互いに助け合う労いの気持ちが持てるよう、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所となっても連絡の取れる関係作りを行ない、適宜相談にもっている。現在、退所されたご家族様がボランティアとして月に1回来苑して下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアワーカー会議にて3ヶ月に1度のモニタリングを通して、支援方法や検討すべき課題の抽出を行ない、検討している。また個別に関わり常に意見の反映が出来るように取り組んでいる。	アセスメントに「ひもときシート」を活用し、日々の利用者同士の会話、仕草から把握している。寄り添う時間を増やし利用者やゆっくり話し合い、答え易い長所があるクローズドクエスチョンの返答から推測しケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや入所後の聞き取りにて得た情報は詳細に記録し、情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活面や心理面を日誌等に記録し、職員全員で共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報の共有と、毎月行っているケアワーカー会議で話し合っている。ケアプランと日々の暮らしが合致しているかどうか、定期的にモニタリングも行っている。	介護計画は利用者と家族の意向を取り入れ、職員が協議し作成している。介護計画は3カ月毎にモニタリングを実施し見直している。変化のあった時は都度見直し、何れも家族に来訪を促し説明し承諾を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段の気づきや生活記録は詳細に記録しているため、それに基づきケアを実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	知人や近隣の方が他サービスを利用するため施設に来られた場合には、職員と一緒に会いに行くなどして、自由に面会が出来る体制を随時取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさんの協力や、町のお祭りに参加し、グループホームでの生活の様子を理解して頂けるよう、地域住民と出会う機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族に依頼しているが、必要時には付き添い、状態の説明等、適切な医療が受けられるように情報提供行ない支援している。終末期には往診して貰える医師にて、24時間オンコール体制を取り、医療面でも充実している。	大部分の利用者は家族の意向で協力医をかかりつけ医に変更している。受診は原則として家族が対応している。受診時、介護サマリーを家族に託し、診療結果は家族と共有し利用者の健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医師に受診相談する前に訪問看護へ相談したり、訪問時には個々の状態を報告している。必要時には24時間オンコール体制にて電話相談も行ない、連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはフェイスシートやアセスメント情報、普段の生活記録を持参し、情報交換を行なう機会を設けている。退院前には病院側と訪問看護師とでカンファレンスを行なうようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行うことができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に意思確認と、時期を見て再度重度化対応・終末期ケアの意思確認を行なっている。現在も看取り介護は行っており、責任者の24時間オンコールも実施している。今年度は2名の看取り介護をさせて頂いた。	重度化対応指針書を策定し入居契約時に医療連携体制加算採用と併せ、説明し同意書を交わしている。重度化の時点で「看取りに関する指針書」を作成し同意書を交わしている。看取りケアの内外研修を受講し、事業所は家族の協力の基、看取りケアの体制、環境を確立している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師がその都度訪問したり、電話にて指示を貰っている。またAEDを設置しており、使用方法の研修にも参加している。折に触れ緊急時のシュミレーションも行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループホーム独自で月に1回想定を変えての避難訓練を行なっている。法人全体での避難訓練や緊急連絡網の訓練にも参加している。河川の傍ある為、水害訓練として敷地内の高層施設へ避難訓練を実施した。	ほぼ毎月、内1回は消防署の指導の下、夜間想定し付近に住宅はないが、隣接モーター店の協力を得て消火、避難訓練を実施している。災害や訓練に活かす様になっている。敷地内に法人の職員寮があって万一の場合、強力な戦力となる。	訓練に地域の協力を得る為に、運営推進会議実施日に訓練を行い、メンバーに事業所内を巡視して貰い、避難経路、消火器の位置等、問題ないか意見、を得る事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対しての言葉かけはプライバシーが損なわれないような対応を心掛け、その都度適切な言動があれば指導している。会議等でも折に触れ言葉掛けの統一を図っている。	名前の呼び方、言葉掛けは堅苦し過ぎず、馴れ馴れし過ぎず、敬いの気持ちをもった接遇マナーで利用者から親しみを持って貰える様、努めている。人権、尊厳の研修を受講し会議で話し合い、ケアに活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話せる雰囲気作りを心掛けたり、自己決定が出来る利用者の発言は大切にしている。時には職員が家族へ代弁したりするなどして、思いや希望を実現できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な時間の流れが決まっているが、利用者の思いや気分を大切に尊重している。買い物や、行きたい所、食べたいもの等、自己決定して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類を選んだり、出掛ける際には帽子を被ったり、利用者によってはお化粧をしている。定期的な散髪を家族に依頼し、出掛けられない利用者は出張理美容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好調査を参考に代替食を用意している。お誕生日会には、本人の食べたい物を聞いて楽しい食事作りを心掛けている。出来る利用者には、食事の準備や後片付けを一緒にして頂いている。	職員と利用者が話し、季節感のある献立を決め、利用者に美味しく完食して貰える様、調理に励んでいる。大半の利用者が主に後片付けを手伝っている。全職員と一緒に同じ食事を摂っている。定期的に外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量・水分量は記録に残し把握している。栄養バランスについては、自由な雰囲気を保ちつつ、野菜や食物繊維を多く摂れる工夫や季節や地域にあった献立を考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを声かけにて実施し、希望者には訪問歯科受診を受けてもらい、本人に合ったケア方法をアドバイスしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えが無い利用者にはこちらから声かけや見守りを行なっている。過度な関わりを避けながら自立の範囲を保っている。ケアの統一を図る為、会議にて一番最適な援助が出来るよう、心がけている。	職員は排泄チェック表を基に排泄パターンを把握共有し、タイミング良くさりげない声掛けでトイレに誘導し排泄の自立に向け支援している。夜間の排泄時間や尿の量で個々に応じたパッドを選択し、心地良く過ぎて貰う様努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	処方薬に頼らず、食物繊維や乳製品が摂取できる献立を工夫している。毎朝、体操の時間を設けて筋力の保持や、苑内を散歩し、適切な運動をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に6日入浴日を設けており、体調不良者以外の方に入浴を勧めている。身体状況に合わせて、入浴チェアを使用している。入浴剤を用い、視覚や嗅覚でも入浴を楽しんで頂いている。	週6日、体調不良でない限り利用者は午後3時頃から全員入浴している。湯量、温度は個々の好みに対応し、ゆっくり入浴を楽しんでいる。入浴中、職員は利用者と談笑し本音を聞く事にも活かしている。ヒートショックにも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後、希望者には1時間程度の休息を取り入れている。それ以外の時間でも各居室で各々休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後、服薬管理や新たな症状の処方については副作用などの把握に努めている。薬剤師とも連携出来ており、相談も行っている。日勤者・夜勤者との伝達事項ともしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を参考にしながら、趣味や日々の生活での役割を取り入れている。毎月お菓子ボランティアに来て頂き、一緒にお菓子作りも行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の意思決定により、買物や外食支援を行なっている。昨年は家族と利用者数名とで1泊旅行に、今年度は家族と利用者全員での日帰り旅行が実行出来た。	広大な敷地内には東屋が2棟設備され、利用者は散策や日光浴に格好の場として気候の良い時は、そこで職員と一緒に寛いでいる。日々の食材などの買い物他に地域の行事参加や季節を感じる花見、外食等、利用者が楽しみにしている外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	持っているお小遣いから、個人で購入されたものは支払って頂いている。可能な利用者には出張販売に向き、自ら品物を選んで頂き、見守りにて支払いもして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には苑内の公衆電話を使用したり、正月には年賀状を書いて頂き、出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花や飾りつけをしたり、落ち着いた座れるソファで、全員でテレビを観て過ごせる環境を整えている。温度、湿度の管理に注意している。	居間と食堂、廊下等は、掃除を徹底して行い清潔に保っている。廊下は広く、ベンチシートを備え独りになれる配慮をしている。壁には利用者労作の作品を飾り、季節のディスプレイや花を飾って季節感を出している。トイレは車椅子での使用が出来、明るくて清潔である。	運営推進会議時にメンバーや外来者からレイアウト等感想や気付きを聞きながら生活空間を工夫し、利用者にとって居心地よい共用空間づくりに役立つ工夫を期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂には定番の位置があり、各々気の合った者同士が座れるように居場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所される際には使い慣れたタンスやベッドを持ちこんで頂ける様に説明をしている。家族からのプレゼントや、家族写真を居室に飾り、部屋にいると家族を思い出し、気分が落ち着くような工夫をしている。	入居前の利用者宅の部屋の模様を聴き、入居後居室のベッドの向きや調度品の持ち込み等、出来る限り自宅とあまり変わらない様、工夫している。利用者は家族や連れ合いの写真を飾り、生活感のある居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	料理・洗濯・掃除等の場面では、一人ひとりの出来ることと難しい事を職員が見極めて、ご本人が出来ることを奪わない様に支援することを意識している。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	会議録は毎回作成しており、参加者の名前も記載できているが、構成員の立場や身分が紹介されておらず、誰がどの役割で来ておられるのかが議事録だけでは分からない。	今後も会議録に参加者の名前を記載すると共に、立場や身分もしっかりと記載する。	会議録に記載する。	2ヶ月
2	13	毎月避難訓練は行なえているが、近隣の協力を得ながらの避難訓練はなかなか実行できていない。	近隣の協力を得て避難訓練することが出来、日ごろ職員だけの避難訓練だけでは見落としがちな所を、別の視点で問題が無いか確認していく。	近隣には住宅が少ない為、運営推進会議にて避難訓練を行ない、避難経路等に問題はないか意見を得る。	12ヶ月
3	19	今あるレイアウトが本当に利用者にとっての居心地の良さを作り出しているのか、外部の意見を取り入れられていない。	外部の意見を取り入れ、本当に利用者にとって最適な空間が作られているか、職員にとっての都合良い空間作りになっていないか精査する。	訪問者や運営推進会議、ボランティアを招いた際、レイアウトでの気付きを聞き、利用者にとって居心地のよい生活空間を作る	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。